

## 業務日誌

著者	和田 正平, 江口 一久
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	58
ページ	107-111
発行年	2005-12-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/1864">http://hdl.handle.net/10502/1864</a>

## 9 業務日誌

1981年 6 月 30 日

第4次 日本ガーナ医療協力プロジェクト基礎調査チーム 代表  
氏名 和田 正平

月 日	曜日	内 容
5月7日	木	午後9時 東京出発 (AF273)
5月8日	金	午前6時40分 バリ到着 Hotelにて休息 午後11時35分 バリ出発 (UT801)
5月9日	土	午前6時30分 アビジャン経由にてアクラ到着 橋本調整員の出迎えをうけ、11時、南リーダー宅にてカウンターパート等の人選について打合せ。 ナショナルハウスを宿舎とし、携行機材等を搬入する。
5月10日	日	午前中 携行機材の梱包をとぎ、内容を点検、リストを作成 午後 休み
5月11日	月	午前中 南リーダー、橋本調整員の案内でMedical Schoolの公衆衛生学科長・Ashitey教授を表敬訪問し、基礎調査のためのカウンターパートを依頼する。しかし、調査票の内容、及び方法などについて異論が出て紛糾する。調査遂行の為、日本側が妥協案を出し、一応の了解を得たと解釈し、引き上げる。
5月12日	火	午前9時 N.M.I.M.R (正式名称は日誌の文末参照) にて、南リーダーと調査の実施計画について打合せ。 午前10時30分 N.M.I.M.R事務長、Riberioを表敬訪問。南リーダー、橋本調整員同席。事務長は、調査の目的及び内容について承服できないと言い、調査開始を延期すべきだと主張。再度議論は紛糾する。しかし、Ashitey教授はとにかく明後日(5月14日)、プロジェクトのモデル地域にプレサ―ヴェイすることには合意。 午前11時40分 ガーナ大学の社会学科講師Peasah夫人を訪問。また、同夫人の紹介で歴史学科のAdu博士とMeeting。
5月13日	水	午前9時30分 大学のBotanical Gardenを見学 午前11時30分 大学のBook Shop等で文献、資料を購入 午前11時40分 Adu博士の案内でガーナ大学のPro-Vice-Chancellor Falcon教授を表敬訪問 午後 学内のAkuaf Hallで、Peasah講師の紹介でLacing博士(植物学)と会談。研究情報を集める。その後、モデル地域のプレサ―ヴェイの準備をする。
5月14日	木	午前8時10分 南リーダー、Ashitey教授の案内でモデル地域に向う。 午前9時20分 Suhum着。Suhum HospitalにてMarble病院長に会う。南リーダー、Ashitey教授の依頼でMarble氏は全面的に基礎調査に協力することを約束する。来週月曜日までに調査補助員を確保しておくとのこと。 その後、Akorabo村に向う。 Akorabo村では小・中学校教員等を集め、調査の意義等を30分にわたって説明。さらにSapresu村、Adidiso村、Adakwa村等を訪問。歓迎をうける。 午後2時20分 再びSuhum Hospitalに戻り、院長宅にて最終打合せをする。 午後2時45分 Suhumから現地調査の基地になるKoforidua (県庁所在地) のPartner May Hotelに向う。 Hotelを予約し、Legon (大学) へ向う。
5月15日	金	午後6時10分 ナショナルハウスに到着 午前9時45分 Ashitey教授との調査計画打合せのため、N.M.I.M.R.に向う。しかしAshitey教授は来ず、別なアポイントがあったため、午前11時30分、学内のAkuaf Hallに向う。 そこで、民族音楽を研究している某客員研究員を紹介される。 さらに、大学本部のあるCommonwealth Hallにて7人のガーナ大学のスタッフを紹介され、当方3名はそれぞれの専門的立場から学術情報を入手する。

月	日	曜日	内 容
			しかし、これらのガーナ大学内で多くの研究者に会って話を聞いたことが誤解を招き、Liberio事務長、Ashitey教授は不快感を抱いたようだ。この日、南リーダーは健康管理休暇でヨーロッパへ出発。
5月16日	土	午前中	調査準備のため、若干の補充機材及び食糧品等の購入にあたる。さらに民族芸術の研究者から、ガーナにおける芸術活動を取材。
		午後	Peasah講師から更に医学部内の情報をキャッチする。
5月17日	日	午前中	休み
		午後	明日(5月18日)ガーナ側との間で行われるMeetingについて作戦会議を開く。
5月18日	月	午前10時30分	N.M.I.M.R.の会議室にて基礎調査の実施に関するMeeting。 <ガーナ側出席者>所長代理：Swaniker教授 Bruce-Tagoe教授 Ashitey教授 Liberio事務長 <日本側出席者>リーダー代理：橋本調整員 基礎チーム：和田・江口・石沢
		午後2時	議論はまたまた紛糾。論争点は橋本調整員の報告通り。われわれがN.M.I.M.R.の事務局を無視し、学内でガーナの研究者と会合したことが問題の口火となったが、調査を実施するよりはむしろ話を難しくし、実施困難に追い込んでいるように思えた。しかもガーナ側の出席者の誰一人も責任をとる発言は一切控えていた。これでは話は進展しない。
		午後2時30分	結局、来週火曜日にManagement Committeeを開くので、それまで現地入りは待つてほしいという要望が出された。
			日本大使館訪問。鈴木書記官に会議の経過を報告(橋本調整員同席)。 檜垣大使にも事情を説明。26日まで待っているのは当初計画した調査は不可能であると申し上げた。
5月19日	火	午前中	鈴木書記官がLiberio事務長と会談。 この結果を聞くために、全員ナショナルハウスにて待機。 26日まで、モデル地域の現地調査が不可能なら、それまでの間、内陸のエクステンシブな調査旅行、特にKumasi訪問に関する申請を橋本調整員を通じてN.M.I.M.R.の事務局へ提出した。 この返事をもらうため、午後も待機。
5月20日	水	午前中	地図、各種資料等を購入。
		午後	調査助手として基礎調査チームに合流することになったJ.O.C.V.の喜多君に調査のインストラクションをし、Kumasi視察旅行の準備。
5月21日	木	午前9時	橋本調整員が「Coordinating committeeが開かれる前、実際にはQuarcoopome所長が帰国する5月23日正午までにAccraに戻るなら、Kumasiへ旅行に出るのは可」という返事を持ってきてくれた。 そこで午前11時ナショナルハウスを出発。 Koforiduaを通過し、途中、自然環境の調査をしながらKumasiへ向う。
		午後5時45分	Kumasi到着。City Hotelへ投宿。
5月22日	金		Kumasi市内にて農業生産に関する市場調査。 Cultural Centre訪問。Museum訪問。 ディーゼルがなく、3時間の交渉によってようやくジープに給油。燃料不足のためKumasi周辺の調査は断念。
		午後2時30分	Cape Coast市へ向う。
		午後7時20分	Cape Coast市到着。Hotelが満員でそれぞれ分宿。
5月23日	土	午前8時30分	Cape Coastの大学を訪問。 海岸線を通ってAccraへ。
		午後12時	Accra到着。
		午後	橋本調整員に旅行終了の報告をすます。
5月24日	日	午前中	National Museumを訪問。 本日より希望していたNissan Patrolが使えるようになった。
		午後	休み
5月25日	月	午前中	文献、資料の整理。調査日数が短縮したので、現地調査の方法について

月	日	曜日	内 容
			てチーム内で討論。
5月26日	火	午後	Tema港湾見学
		午前9時	宿舍を出発。Akosomboダムを見学。
		午後	本日開催されたManagement Committeeの結果を聞くため宿舍で待機。
		午後2時	橋本調整員のメッセンジャーが来る。全員N.M.I.M.R.へ向う。 南リーダーの研究室で橋本調整員の報告を受ける。 Management Committeeの結果は、橋本レポートの通り、すべて建設的な報告はなく、調査に関して否定的な会議に終始したようだ。所長Quarcoopome不在のManagement Committeeで、責任をとれる委員はいなかったようだ。 また、カウンターパートに予定していたAshitey教授がこの調査からおりと回答してきた。
		午後3時30分	日本大使館へ向う。鈴木書記官に会議の結果を報告。 本日、調査にゴーサインが出なかったことで、われわれの調査は極めて困難になった。従って6月1日から現地入りできない場合は、ただちに帰国したいという要望を鈴木書記官、及び橋本調整員に申し入れた。
5月27日	水	午前9時	石沢は喜多君と宿舍を出発。Ewe族の村落を訪問。食事調査を行う。 和田・江口は帰国準備を考えながら、また最悪の条件の中で調査方法について討論。
		午後12時30分	帰国したQuarcoopome所長と鈴木書記官の会談が始まったという知らせを受ける
		午後3時10分	橋本調整員から会談の結果について報告を受ける。 激論になったという話だったが、内容は少しも好転しなかったという。
5月28日	木	午前9時15分	N.M.I.M.R.に向かい、所長Quarcoopomeを表敬訪問。(橋本調整員・Liberio事務長同席)。所長は、基礎調査について討論してもよいと発言したので、われわれは、「6月1日までに現地入りできれば、まだ調査は可能なのでなんとか残された時間、仕事して帰りたい」と希望を述べた。 これに対して所長は「南リーダーとの打合せが不充分であり、問題は残っているが、新たに社会学科からカウンターパートを迎えて調査を実施したい」と急転直下話がまとまり、6月1日現地入りのOKが出た。
		午後	日本大使館訪問。檜垣大使に午前中の所長との会談内容を説明。ようやく調査の見込みがついたことで大使もホッとされたようだ。
5月29日	金	午前9時	石沢は喜多君 (J.O.C.V.) に案内され、海岸地方のFante族のGomoa Brofo村へ行く。 和田・江口は宿舍において調査方針に関する日本側の態度を討論し、所長がカウンターパートに予定したDr.Twumasiを訪問する。しかし出張中で留守。
		午後	民族音楽の資料を収集。
5月30日	土	午前8時45分	和田・江口はヴォルダ地方のEwe族の中心地Hoへ向う。
		午前11時	Ho到着。Hoからトーゴとの国境Shienに向う。
		午後	Ewe族の村を訪問。生活環境等を視察。帰途につく。
		午後6時30分	宿舍到着。
5月31日	日	午前中	James Fort等の海岸線の遺跡を見学
		午後	Peasah講師の案内で、カウンターパートに予定されているDr.Twumasi宅訪問。明日(6月1日)に行われる現地調査のためのMeetingが円滑に進むよう打合せをする。 Dr.Twumasiは日本側の意図を理解し「あなた方が調査しやすいように協力する」と約束してくれた。
		午後7時	Gomoa Brofo村から石沢が戻る。
6月1日	月	午前9時	N.M.I.M.R.の会議室において調査実施のための具体的な打合せ(調査目的、方法、内容等)を行う。 <出席者>:日本側>和田・江口・石沢(橋本調整員同席) <出席者>:ガーナ側>Twumasi博士(Liberio事務長同席) 但、所長Quarcoopomeは所長室に待機し、合意内容について

月	日	曜日	内 容
			てTwumasi博士から説明をうけていたようだ。
		午前11時	協議終了。双方確認書を作成することになり、所長に挨拶をし、会議終了。6月2日から現地入りすることになる。なお、ガーナ側が補充した質問事項は明日（6月2日）の出発までに印刷を完成することになる。
		午後	現地調査に必要な調査員の文房具類や寝具、また現地へのおみやげ等を購入するためアクラ市内で買い物。 宿舎において調査準備。
6月2日	火	午前9時	N.M.I.M.R.へ行くが、昨日約束した2台の車が1台しか用意されておらず、事務長と再交渉。
		午前11時30分	ようやく2台の車が用意され現地へ出発。 KoforidooのPartner May Hotelを後方基地とし予約する。 ひとまず機材等をHotelに搬入する。
		午後2時30分	Koforidooから現地Akorabo村へ向う。
		午後4時	Akorabo村のchiefと会見。Dr.Twumasiと日本側専門家3名、ガーナ調査員3名、調査協力者として喜多君（J.O.C.V.）の村入りが許される。ガーナ側調査員3名は、そのままAkoraboに民宿。日本側専門家3名及び喜多君はKoforidooのHotelに宿泊。
6月3日	水	午前7時30分	Hotel出発
		午前8時30分	Ministry of HealthのKoforidoo RegionのChief officer Dr.Adamafioを表敬訪問。調査内容を説明、協力を依頼する。 キャンピング物資を購入し、Akorabo村へ出発。
		午前10時	Akorabo村到着。 現地の宿舎を借上げ、また広場にテントを張り、調査基地を設営。
		午後	一部、調査を開始。
6月4日	木	午前7時	「質問用紙」については面接世帯を分担させ、また「聞き書き調査」については各自の専門領域にしたがって調査項目を担当して、フィールドノートによる調査を開始した。調査は午後7時～8時、日が暮れるまで続行した。 但し、午後3時～5時までの間、和田・江口はSuhum Hospitalに院長Dr.Marbleを訪問、5月18日（月）に現地入りするという約束が果たせなかった理由を説明。調査がAkorabo一村しか出来なくなったことを陳謝する。
6月5日	金	午前7時30分	全員「面接調査」に出発。 江口は調査員を補充するためアクラに出発。
		午後7時～8時	調査員は三々五々基地に戻る。
6月6日	土	午前7時30分	全員「面接調査」に出発。 本日より「植物標本」の採集開始。 調査済みの「調査票」の点検、整理。
		午後7時～8時	調査員三々五々基地に戻る。
6月7日	日	午前7時30分	ガーナ人調査員「面接調査」に出発。 村の教会において「聞きこみ調査」
		午後6時頃	調査員全員基地に戻る。 1日中雷雨のため、面接調査の票数はのびなかった。
6月8日	月	午前7時30分	ガーナ人調査員「面接調査」に出発。 「植物標本」の採集、サンプリングによって家屋見取図の調査を行う。
		午後7時～8時	調査員三々五々基地に戻る。
6月9日	火	午前7時30分	ガーナ人調査員「面接調査」に出発。 調査済みの「調査票」の点検、整理。 村落の人文地理完成。物質文化の調査を開始。
		午後7時～8時	調査員三々五々基地に戻る。
6月10日	水	午前7時30分	調査員「面接調査」に出発。
		午前10時	南リーダーの訪問を受ける。調査の進行状況について質問を受ける。
		午後2時	Dr.Twumasiがやはり調査の進行状況を心配され基地を訪問。 ここでわれわれの疲労が重なり、調査員の志気も衰えてきたのでKoforidoo Hotelに宿泊することにする。

月	日	曜日	内 容
6月11日	木	午後5時	Akorabo出発
		午後5時45分	Koforidoa到着。2つのHotelに分宿。
		午前9時	KoforidoaのHotelを出発。
		午前9時50分	Akorabo村に到着。
		午後	調査員「面接調査」に出発。 Ashley教授が村にやって来て調査員にクレームをつけたという。 2人の調査員が戻ってくる。
6月12日	金	午後6時	全員調査を切りあげ休息。
		午前8時	調査員は調査済みの「調査票」の未記入の項目について再調査に出かける。「植物標本」に聞き書き調査、及び「市場調査」を行う。
6月13日	土	午後	和田・江口はChiefの家に呼ばれ、様々な要望を聞かされる。
		午後6時～9時	「調査票」の総点検、及び整理。
		午前7時	基地撤収
		午前10時	基礎調査の全員がChiefの家で村を出る儀礼を行う。
		午前11時	大雨の中、機材等を車まで運搬。
		午後12時	村人たちに見送られ、Akorabo村を出発。
		午後12時50分	Koforidoa Hotelに到着。Hotelにデポした荷物を車に積みこむ。
6月14日	日	午後1時10分	同Hotel出発。
		午後3時	ガーナ大学内の宿舎に到着。
		午後4時	ガーナ人調査員に手当てを払い解散。
		午前8時50分	N.M.I.M.R.の南リーダーの研究室にて調査済み「調査票」のコピーを開始する。5人のアルバイトによって作業を行ったが、複写機がオーバーヒートして、午後5時までに半分もコピーできなかった。しかもコピーが薄く、読めないので一部原票と照合して手で記入しなくてはならなかった。
6月15日	月	午前8時50分	昨日に引き続きコピーを開始。読めなくてもとにかく員数だけでも確保しようと努めた。 江口は植物標本の固定をDept of BotanyのDr.Dokoshiに依頼し、Daniel.K.Abbiw助手の協力で作業を進める。
		午後1時	ガーナ側関係者との昼食会 <招待者>Quarcoopome所長、Dr.Twumasi (Liberio事務長は欠席) 他3名
6月16日	火	午後7時30分	晩餐会 大使館主催
		午前中	ナショナルハウスで帰国準備。荷物整理。 完成した調査票コピーをDr.Twumasiへ届ける。
		午後5時	南リーダー宅へDr.Twumasi, Peasah講師が集合。 事務長Liberioが調査の原票を国外へ持ち出すことに難色を示したため、最後まで心配して見送りに来てくれたのである。
6月17日	水	午後9時	Accra出発 (SR269)
		午前7時05分	Zurich到着
		午前8時55分	Zurich出発
6月18日	木	午前9時15分	London到着 午後 Hotelにて休息
		午前中	大英博物館訪問
6月19日	金	午後	大英博物館訪問
			オックスフォード大学訪問
6月20日	土	午後4時	London出発 (JL422)
6月21日	日	午後8時10分	大阪着

N. M. I. M. RはNoguchi Memorial Institute for the Medical Researchの略、(ガーナ大学、野口記念研究所が本プロジェクトの引受け母体であった)

